

# 子どもの人権について考える

子どもを一人の人間として尊重していますか

子どもにも、大人と同じように基本的人権が保障されています。大人以上に人権が侵害されやすい子どもは、社会的に保護され、守らなければならない存在です。ここに、『私の大好きなお友達』という短いお話があります。

「遊びに行つてきまーす」「行つてらっしゃい。今日は誰と一緒に？」さやかちゃんとかねちゃんと言っていると、「あかねちゃんも？」とママは少し変な顔をした。

ママは、さやかちゃんのママと仲良しで、いつも可愛い服装をしているさやかちゃんが好きなの。でも、いつも公園で泥だらけになって遊んでいるあかねちゃんのことは、好きじゃないのかな？「この前、あかねちゃんと遊んで、お気に入りの服を真っ黒にしてたじゃない」とママ。それで私はママに言った

の。「あのね、ママ。あかねちゃんはいつてもやりたいことがいっぱいなの。それに、私にいろんな事を教えてくれるのよ。だから、私は大好き。じゃ、行つてきます」その夜、ママとパパが、「あの子はきちんと自分の気持ちを言えるんだね」と嬉しそうに話し合っているのが聞こえました。

この話を読んで、子どもの人権が尊重され、健やかに成長するためには、どのような接し方が大切だと思いますか。

子どもの気持ちを尊重していますか

子どものためには、何をするとき、「それがその子にとって一番よいことかどうか」を考えることが必要ではないでしょうか。時として、大人の都合で一方的に子どもの行動を制限したり、進路を決めたりすることがあるものです。

子どもたちは何よりも、一人の人間として、それぞれの違いが大切にされ、個性が尊重されることを望んでいます。

今私たちに求められていることは何でしょう

子どもを取り巻く環境は、虐待やいじめ、不登校などに見られるように深刻な状況にあります。このような問題の根底には、他人に対する「思いやり」や「いたわり」といった人権尊重の意識の希薄さがあるとも言われています。自分が子どもだった時代を思い出してみてください。いつも、大人からの認め、誉め、励ましの言葉を期待し、喜びを感じていました。私たち大人には、今、子どもたちのつぶやきや表情の変化に気づく力、SOSを受け止める力、成長・発達を支援する力が求められています。

また、子育ては保護者だけでなく、社会全体で果たすことも求められているのです。

熊本県人権同和政策課「人権研修テキストV」参照  
益城町教育委員会

## ふるさとの地名漫歩

## 歴史の変遷と地名

366

### 飯田山常楽寺②

このようにして常楽寺の歴史には聖徳太子をはじめ日羅・眞俊・相俊・俊仍と名僧が名を列ねますが、肥後国誌には日羅上人伝説を否定して、別に日羅上人二人説を紹介しています。

「……土俗ノ説ニハ日羅將軍ノ開闢ニハアラス、往古百濟國ヨリ日羅ト云ル頓智ノ僧吾朝ニ航海シ此所ニ着船ス。其齋來ル塔石即チ當寺ニアリ船覆ツテ即チ山トナリ今船野山ト云ウ。四十八人ノ水主ヲ神ニ祝イテ木崎村荒帆大明神ト云ウ。此日羅上人當山ヲ開基シ山鹿郡杉村ニ日輪寺ヲ……」と述べています。ここで御船町の「御船」の地名伝説がその二人説を補足します。御船の地名説話に二つあり、一つは景行天皇来航説で、天皇が九州征服の時船が着船したので尊んで「御船」とした説で、これは南北朝時代南朝方の懐良親王が御船に入部滞在した史実と混同された可能性があります。

もう一つの説は百済の仏僧日羅が船に石塔・経文を積み

矢形川を遡り木倉の小地名「飯田口」に着船し、寺宝を陸揚げし常楽寺を開基したとされ、これも尊い経文などを積んだ船なので御船と名付けた説です。この説話は先の肥後国誌の木崎村荒帆大明神説と矛盾しますが、これは御船地名説話で常楽寺縁起説話ではありません。しかし日羅二人説の補強にはなりません。

この地名説話に飯田山常楽寺の石塔が出ることは、その背景に当時の甘木庄一帯に存在した常楽寺への信仰の影響があったことが考えられます。日羅は將軍とも呼ばれる百済の高官で僧ではなく、日本滞在は100日余りの期間であり、日羅二人説が妥当かもしれません。

益城町文化財を訪ねる会  
会長 松野國策



木崎荒帆宮神社